

「市川五人衆・その他ごめん」

墨東綺譚のその裏で

永井荷風が真間川で泣いてた

「長い間、家風にあわず」とか言っちゃって

木刀片手に団地の路地裏

菅野の風にネクタイなびかせ

「忌憚のないところで申し上げます」

恋は綺譚 文学バトル

一人リリック吐く姿、Respect 泣泣

行徳の海苔で心を包む

梨のスムージーで韻を滑らす

北から来たぜ白秋さん わざわざ ザワザワ

詩の白波が江戸川をワタル

八幡の社で握手されちゃった

昭和も令和も 白秋は響くぜ！

「市川から、よう北原」^くとか言われつつ

桜並木にポエムの影落とす

白き秋風 コトバが揺れて

「おほめの拍手」ばっかもらって

梨並木のざわめきと バウムクーヘン

詩人の糖度も じんわり上がる 甘甘

見得を切ったら地鳴りがするぜ

成田屋の魂 ここ市川に宿る

歌舞いてなんぼ 團十郎

江戸の粋を 詰め込んだフロウ

「イヤア！」の声が南八幡に響く

着物じゃなくて ラップで継ぐ

九代目もびっくり 大見え張って

長谷川 勝士

市川っ子が言う「やっぱイケてる」嬉々

舞もわいもワイワイも マイ市川フレーバー

この街で踊ろう 2・0・2・5のバイブス

国府台で本読んでたの 蘆花先生

花とロマンとちょっと陰

不純を濾過して 廊下を走る

道ばたの草にも声をかける

「平和と自然が一番」とか言って

今ならカフェで エモ語り

でもそれが沁みるんだよな

市川って そういうとこ

高台から見た梨畑に一句

恋と自然と語る スローライム

ようよう 突っ込みどころ満載の

市川五人衆 おっと足りない あと一人

昭和100年 せめて百人ならべておくんな

武者小路実篤 って名前だけで

むしろぶるい それが文学 実篤さーね

だけど「仲よきことは美しき哉」って

真間の桜にぴったりの愛

「市川でもう一度 青春したい」

って感じのセンチなビートで詠む

道の駅で買った 落花生ひとつ

「豆に詠むぞ」って笑って泣いた

名前が長すぎるのに 愛されてる

それってつまり 最強じゃね？笑笑